九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

HPV Infection in Squamous Cell Carcinoma of the Hypopharynx, Larynx, and Oropharynx With Multisite Involvement

久我, 亮介

https://hdl.handle.net/2324/7182343

出版情報：Kyushu University, 2023, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

KYUSHU UNIVERSITY

氏　名：　久我　亮介

論文名：　HPV Infection in Squamous Cell Carcinoma of the Hypopharynx, Larynx, and Oropharynx With Multisite Involvement

（下咽頭・喉頭・中咽頭扁平上皮癌におけるHPV感染）

区　分：　甲

論　文　内　容　の　要　旨

中咽頭扁平上皮癌（OPSCC）における高リスクヒトパピローマウイルス（HR-HPV）の有病率と予後的意義は十分に確立されているが、下咽頭SCC（HPSCC）や喉頭SCC（LSCC）では確立されていない。さらに、多部位に病変が広がるSCCにおけるHR-HPV感染についても検討されていない。これらの問題を明らかにするために、467名のHPSCC、LSCC、またはOPSCC患者から480腫瘍（病変）の浸潤性腫瘍を後方視的に収集し、詳細な腫瘍の局在、mRNA in situ hybridization（ISH）による転写活性の高いHR-HPV感染、およびp16とRbの免疫組織化学的染色を総合的に解析した。

HR-HPV感染は115/480腫瘍（24%）で観察された。HPV陽性症例はp16陽性およびRb部分欠損パターンと密接に関連していた。HR-HPVは、pure-type OPSCC群では104/161例（64.6%）で検出され、pure-type HP/LSCC群では1/253例（0.4%）のみであった。多部位に浸潤するcombined-type SCC群では、10/40例（25%）にHPV感染が認められ、HPV陽性10例はOPSCCが喉頭または下咽頭に進展していた。High T-stage（T3/4）のpure-type OPSCC症例では、HPV陽性症例は予後が良好であった（P=0.0144）が、HPV陽性のcombined-type OPSCC症例では、HPV陰性症例と比較して予後に有意差を示さなかった（P=0.9428）。

この結果は、pure-type HPSCCおよびLSCCにおけるHR-HPV感染は極めてまれであることを示唆している。HR-HPV感染は、中咽頭と下咽頭/喉頭に広くまたがるSCC症例においてかなりの割合で認められるようであるが、このような進行した病期では予後を改善しない可能性がある。これらの点に関して、より大規模集団を対象にした今後の研究が待たれる。